# リスクアセスメント ＆ 作業手順書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 工事名称 | 2024年度 東海北陸自動車道　高山管内維持修繕業務 伸縮装置弾性シール材補修工 | 作成会社名 | 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋㈱ |
| 工　期 | 令和6年4月1日　～　令和7年3月31日 | 作成者 | 金子　歩夢 |
| 作業名称 | 伸縮装置弾性シール材補修工　作業手順書 | 作成年月日 | 令和5年4月1日 |
| 使用機械<br>使用設備<br>（具体的な名称・クラスを記す） | 黄パト、、材料運搬車<br>標識車 | 現場責任者<br>協力会社 | 会社名 |
| 使用工具<br>機器<br>（大きさ太さ等は具体的な寸法を記す） | バキューム機、刷毛、ローラー、コーキングガン、ワイヤーブラシ<br>撹拌機（ハンマードリル）、 | 協力会社責任者 | 自筆サイン |
| 保護具 | 安全靴、ヘルメット、安全チョッキ(点滅)、手袋、防護メガネ、防護マスク、反射脚絆<br>耐振動用手袋、耐切創用手袋（メンテ配布） | | |
| 免許・資格等<br>(免)(技)(特)(準特)の区別を記す | 普通自動車運転免許、準中・中・大型自動車運転免許<br>振動工具取扱作業者（特） | | |
| 作業人員<br>（当作業に関わる役割と人員を全て記す） | 撤去・清掃・養生：2～3名、プライマー塗布：1～2名、バックアップ材設置1～2名<br>シール材充填：2～3名、地覆部施工1～3名、養生・仕上げ・片付：全員 | | |
| 作業手順<br>周知会<br>参加者<br>**サイン**<br>（記録） | 作業責任者（職長）　周知会実施日　令和　年　月　日<br>（役割を確認して**この作業に関わる全員が自筆サインする**） | | |

作業順序

| | |
|---|---|
| 1 | 準備作業 |
| 2 | 工事車両進入 |
| 3 | 撤去・清掃・養生 |
| 4 | プライマー塗布 |
| 5 | バックアップ材設置 |
| 6 | シール材充填 |
| 7 | 地覆部施工（3～6と同様） |
| 8 | 養生・仕上げ・後片付け |
| 9 | 現場離脱 |

| リスクの見積り | | 重大性<br>○：軽微<br>休業4日未満 | △：重症<br>休業4日以上 | ×：極めて重大<br>死亡・障害を伴う |
|---|---|---|---|---|
| 可能性 | ○：めったに発生しない（5年に1回程度） | ○○ | ○△ | ○× |
| | △：時々発生する（1年に1回程度） | △○ | △△ | △× |
| | ×：かなり発生する（6ヶ月に1回程度） | ×○ | ×△ | ×× |

| 組み合わせ | リスクの評価 | 優先度又は実施担当者 |
|---|---|---|
| ○○ | 1：極めて小さい | 関係者に対策の周知 |
| ○△、△○ | 2：かなり小さい | 関係者に対策の指示 |
| ○×、△△、×△ | 3：中程度 | 職長が確認 |
| △×、×△ | 4：かなり大きい | 工事担当責任者が確認 |
| ×× | 5：極めて大きい | 十分に訓練をした対策が必要 |

リスクレベル　**5＝十分に訓練をした対策が必要　4＝工事担当責任者が確認　3＝職長が確認　2＝関係者に対策の指示　1＝関係者に対策の周知**

| 作業項目<br>（ 誰 が ） | 手順<br>主なステップ | 急所<br>作業のポイント | リスクの洗い出し<br>（予想されるミス・ロス） | 可能性 | 重大性 | 評価点 | リスクレベル | ミス・ロス | リスクの除去・低減のための実施すべき事項の特定<br>（防止対策） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 準備作業 | | | | | | | | | |
| ミーティング | 健康状態の確認 | 作業責任者(職長)が確認 | | | | | | | 体調不良の作業員は規制内へ入場させない |
| | 免許・資格等の確認 | 作業責任者(職長)が確認 | | | | | | | |
| | KYMの実施 | 作業員全員で | | | | | | | 図面を全員で確認し、埋設仮設物が無いことを確認する。 |
| | | 健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物（チョッキ・脚絆・ヘッドライト等）の充電確認・業務用プレートの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認（落下・飛散対策）荷締めの位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。工事車両幕がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。<br>担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。<br>車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲（上下含む）を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。 | | | | | | |
| 車両の点検・準備 | 車両の始業前点検、工具の確認 | 運転手、全員 | | | | | | | |
| | 積荷の確認 | 積荷の状態 | 走行の中荷崩れ、飛散養生。 | ○ | × | ○× | 3 | 安 | トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。 |
| 工事車両進入 | 工事車両進入 | 指定の入口から | 移動中一般車両と接触する。 | ○ | △ | ○△ | 2 | 安 | 道路交通法を遵守する。区間内走行ルール・駐車ルールの厳守 |
| 全作業 | 交差道路の確認 | ジョイント下への落下 | 交差道路を気にしておらず側道走行車に落下物が当たる。 | ○ | × | ○× | 3 | 公 | 事前に交差道路を確認し、ある場合は側道部に監視員を配置する。 |
| 全作業 | ケレン、材撹拌 | 振動工具の使用 | 手袋及び時間を考慮せず<br>白蝋病を引き起こす。 | △ | × | △× | 4 | 安 | 一連続作業時間を30分以内とし、一連続作業の後5分以上の休止時間を設け、振動工具使用時は耐振動用手袋を使用する。 |
| 全作業 | 中央破線側ので作業 | 通行帯付近の作業 | 規制外へはみ出し、一般車に接触する。 | ○ | × | ○× | 3 | 安 | 現場上流部60m手前からサインポストを設置し、監視員による警笛で作業を中断する。 |
| 撤去・清掃・養生 | 既設シール材等の撤去 | カッター等を使用 | カッター等を使用時、素手作業し怪我をする。 | △ | ○ | △○ | 2 | 安 | メンテから配布された耐切創用手袋を着用する。 |
| 撤去・清掃・養生 | 撤去後の清掃 | 箒やバキュームの使用 | 表面上に粉砕土砂・塵芥等を残し品質低下を起こす。 | △ | × | △× | 4 | 安 | 清掃後全員で確認し、取り残しが無いようにする。 |
| 撤去・清掃・養生 | フェースプレートの養生 | 養生テープ等の使用 | 養生をせず、シール材が伸縮装置天端に付着し、一般車に付着する。 | ○ | × | ○× | 3 | 公 | フェースプレートに沿った養生を確実に行う。 |
| プライマー塗布 | シール材接着面への塗布 | 刷毛、ローラーの使用 | 風等により毛に付着した液が飛散し走行車に付着する。 | △ | △ | △△ | 3 | 公 | 毛に付着した液をしっかりと水切りしてからプライマー容器から離す。 |
| バックアップ材の設置 | 押し棒とうによる詰込み | 挿入時 | 深く詰め込みすぎ樋や枠を通過し落下する。 | × | ○ | ×○ | 3 | 環 | 設置前に下面を確認したうえでどの程度挿入できるかの検討を立ててから詰め込みを行う。 |
| シール材の充填 | 撹拌中 | ハンマードリルによる撹拌 | 撹拌中飛び散り、一般車に付着する。 | △ | △ | △△ | 3 | 公 | 撹拌する際は壁高欄のそばで行い、一般車から遠い位置で行う。 |
| 地覆部の施工 | 上記同様の対策 | | | | | | | | |
| 地覆部の施工 | シーリング材の充填 | コーキングガンの使用 | 養生をせず、シール材が地覆部に付着し景観を損ねる。 | ○ | ○ | ○○ | 1 | 公 | 地覆部に沿った養生を確実に行う。 |
| 養生・清掃・後片付け | シール材充填後 | 養生時 | 表面上の硬化確認を怠る。 | △ | △ | △△ | 3 | 公 | 表面上の硬化を確認してから現場を離脱する。 |
| | 清掃・後片付け | 残材、工具の忘れのないように | | | | | | | |
| | 積荷の確認 | 積荷の状態 | 走行の中荷崩れ、飛散養生。 | ○ | × | ○× | 3 | 安 | トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。 |
| 現場離脱 | 工事車両退出 | 指定の出口で一旦停止 | 通過車両と接触する。 | ○ | △ | ○△ | 2 | 安 | 通過車両の通行がないのを確認後退出。 |
| | | | | | | | | | 工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事 |